



「未来づくり」の取り組みを深化させ、JR産業の魅力を向上しよう！

2023年 6月21日

日本鉄道労働組合連合会

貨物鉄産労2023夏季手当交渉妥結

夏季手当 1.62ヵ月 支給日:7月7日(金)

貨物鉄産労は6月17日の団体交渉で、会社から夏季手当について上記の回答を受けた。

会社は「度重なる自然災害や物価上昇に伴う消費低迷、ウクライナ情勢の長期化に伴う原油高騰に起因するコスト増が経営成績に大きな影響を与えている。経費圧縮や固定費削減に取り組むとともに、徹底した感染拡大防止対策のもと、指定公共機関として物流サービスを継続して提供してきたが、2023年3月期決算では経常利益が単体で▲63億円と前年を下回る大変厳しい結果となった」と厳しい経営状況を主張しつつも、「今後もカーボンニュートラル、物流の2024年問題といった社会課題の解決に貢献すべく、『今後の鉄道物流のあり方に関する検討会』の中間とりまとめを受けて設定したKGI/KPIの達成に向けて今後も邁進していかなければならない。『JR貨物グループ中期経営計画2023』の最終年度となる本年は、お客様のニーズに応え、貨物鉄道輸送が果たすべき役割と責任を全うすべく、グループ全体で協働しながら各種取り組みを進めなければならない」との決意を表明したうえで、「これまでの社員の努力に感謝するとともに今後の貨物鉄道輸送の更なる発展のため奮起することを期待したい」との姿勢を示した。

回答を受けて貨物鉄産労は、「期末手当の結果には組合員だけでなく、就職活動中の若者も関心を示している。JR貨物のブランドイメージを向上させ、有為な人材を確保していくためには中長期的な視点で賃金・労働条件の改善を図っていくことが重要である」と主張。また、「2024年問題が目前に迫る中、貨物鉄道輸送の更なる発展にむけて労使が一体となって取り組まなければならない」と述べたうえで、「示された回答は我々の要求と乖離があり納得できるものではない」との見解を示したが、年末手当では真摯ある回答を強く求めるとともに、2020年度年末手当である1.6ヵ月を上回ったことは評価できるとし、妥結した。